

南国市で遺留品返還式を実施

― 母から子へ、返事を待ち続けた手紙 ―

拝啓 久しく御無沙汰致して居ります 幾年まちし

(不明) 年間の早十二月の月にさしせまりました

復員せんのを聞けば思ひわ遠き箴子の上に

其の方わ定めし無事にて精出して居ります事と

家内一同神念致して居ります内も家内一同元氣にて

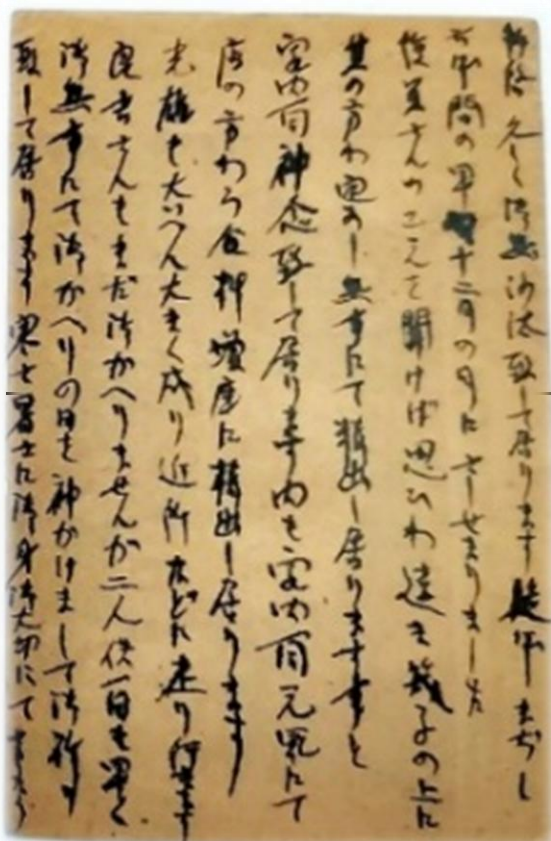
店の方わら食料増産に精出して居ります

光雄も大へん大きく成り近所などに走り行きます。

良吉さんもまだ御かへりませんが二人供一日も早く

御無事にて御かへりの日を神かけまして御祈り致して

居ります。寒き暑さに御身御大切に さいようなら



この葉書は、南国市出身でグアムへ出征していた山本義彦さんに宛て、その安否を案じた母・鹿恵さんが、義彦さんの所属していた部隊の住所に宛てて投函したもので、消印など一部判読不明な部分があるが、昭和20年代に出されたものだと思われる。

日本遺族会によると、終戦後、横須賀で勤務していたアメリカ兵が、何らかの理由で日本の郵便袋を米国へと持ち帰り、その方が亡くなった後、家族がオレゴン州のエバ―グリーン航空博物館にその郵便袋を寄贈し、同館で保管していたのと。

この度、同館から米国の「O B O N ソサエティ」(日本兵の遺留品返還活動)をして、民間団体(遺留品を返還したいという協力要請があり、百二十枚ほどの郵便物につい

て遺族の捜索を行ったところ、そのうちの一枚が高知県出身の山本義彦さん宛てであると判明し、日本遺族会を通じて当会に関係者の捜索依頼があった。

捜索にあたっては、野村新作南国市遺族会長と門田理博長岡地区長のご尽力により、ご協力を依頼した当日にご家族が判明し、返還の一報をお伝えすることができた。

そして、南国市福祉事務所のご協力により、8月22日に南国市役所で返還式が行われることになり、当日は平山耕三南国市長、野村南国市遺族会長、門田地区長にもご出席いただき、一同を代表して、平山市長より、義彦さんの長男・光雄さんの妻・美代子さんに葉書を返還していただいた。



葉書返還までの経緯を聞く出席者

残念ながら、義彦さんは昭和19年8月15日、グアム島にて戦死されており、この葉書は手元に届くことなく、また、母の鹿恵さんの元に戻ることもなく、遠いアメリカへと渡った。



ご遺族の山本美代子さんと平山市長

これまでこの葉書を保管していた米国のエバーグリーン航空博物館からは、『この葉書をお返しできることは、私たちにとつて大変光栄であり、友情の精神をもってお返しいたします。何十年もの長い時を経て、あなたがこの葉書によってお心にかけておられ、静かに先祖様を偲ばれる一助となりますよう心から願っています。』という手紙が添えられており、当会の大石会長からご遺族に手渡された。

エバーグリーン航空博物館とO B O N
ソサエティからの手紙を渡す大石会長



返還式には、県外から帰高した山本義彦さんの孫・大林みささん、ひ孫・小雪さんも出席されており、ご持参くださった義彦さんのお写真を拝見しながら当時のご家族を偲び、出席者でしばし懇談した。



葉書を見つめるご遺族

また、義彦さんの孫・みささんから、『祖父は、父（光雄）がお腹にいた時出征し、戦死致しました。（中略）
時を越え、曾祖母の直筆の思いに触れる日が来るとは夢にも思わず、涙が止まりませんでした。戦後八十年が過ぎ、今で

は戦争を知らない世代が大半となりました。私の子供達も、自分が遺族である意識したことはほとんどなかったと思います。ですから、この葉書を通じて、戦争を自分ごととして考える機会を得られたことは、どんな知識や教訓にも勝る、かけがえない経験となりました。『と、ご丁寧な感謝のお手紙を頂戴した。

返還に際し、ご協力をいただいた皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

